

第三者評価委員会における委員の評価

2026.3.9

海星学院高等学校

理事長室

I 自己評価及び学校関係者評価に関する意見

- これまで何度か話したが、中学校時に不登校であった生徒が元気に登校している様子を見て、中学校の元校長として非常に感謝している。不登校経験のある生徒が登校できるようになっていることにどのような秘訣があるのか。
- まず、人数が少ないことで、教員と生徒、生徒同士の人間関係が作りやすい。その他にも少ないことのメリットを生かして、進路の個別面談にすべての教員が参加したり、生徒の進学指導にすべての教員を割り当て一人ひとりに対応したきめ細やかな指導ができています。また、これらの取組が教員の生徒理解につながるという好循環を生んでいると思う。
- 函館の私立高校でもSCを導入する学校が多くなっており、SSWに続いてSCを来年度から配置することは今の生徒の実態に即した対応と評価している。
- ルーブリックを活用できていることは羨ましい限りである。勤務した高校でも導入に前向きに取り組んだが、一部の教員に趣旨や活用方法を理解してもらえず、軌道に乗せるのに苦労した。
- オープンスクールを今年から平日に開催したが、中学校側の受けとめはどうか。
- 土日開催のオープンスクールは、生徒の個人参加となる。しかし、平日は学校の責任で教員が引率して対応している。そのため、教員に私立高校の教育活動を知ってもらえるという効果がある。また、公立のみを希望する生徒にも、選択肢を増やすために私立のオープンスクールに参加することを勧めている。その意味で平日開催は海星の教育活動の広報ということでは意味があると思う。
- そのオープンスクールで生徒が説明していることに関して、同じ生徒

目線で説明してもらえことは、中学生にとっても身近で学校をよく知ってもらうには効果が高いと評価している。

- ICTの活用に関して、1時間ずっと機器を活用する授業に関しての生徒の評価は決して高くはない。メリハリをもって必要なところにICTを効果的に活用している教員の評価が一層高くなっている。

2 次年度の学校運営に関する意見

- 学校関係者評価委員会に分掌の部長や学年主任などの責任者が参加して、説明、発言するなどの対応場面があったが、自らの取組を振り返り、経営参画意識を高める効果もあり、継続して欲しい取組である。
- 次年度から週1時間削減し、生徒の指導に充てるということであるが、個々の生徒の指導に焦点を当て、かつ、生徒の負担軽減、教員の働き方改革の観点からもパイロット的であり、今後さらに広がってほしいと考えており、成功させてほしい。